

富津市介護保険運営協議会会議録

1 会議の名称	令和6年度第2回富津市介護保険運営協議会
2 開催日時	令和6年8月8日（木）10時01分～11時12分
3 開催場所	富津市役所 2階 第3委員会室
4 審議等事項	<p>1 議案</p> <p>（1） 指定地域密着型サービス事業所及び指定地域密着型介護予防サービス事業所の指定更新について</p> <p>2 報告</p> <p>（1） 令和5年度地域包括支援センターの決算及び事業評価について</p> <p>（2） 令和5年度介護保険事業特別会計決算見込みについて</p> <p>（3） 第8期富津市介護保険事業計画・富津市高齢者福祉計画の達成状況の報告・評価について</p> <p>（4） 指定介護予防・日常生活支援総合事業指定事業者の指定更新について</p> <p>（5） 指定介護予防・日常生活支援総合事業指定事業者の廃止について</p> <p>（6） 指定居宅介護支援事業所の廃止について</p>
5 出席者	<p>【委員】宮崎晴幸 委員、榎本孝 委員、吉原徳男 委員、大野泰代 委員、鈴木安夫 委員、本山繁樹 委員、早川清子 委員、土谷玲子 委員</p> <p>【事務局】高橋 市長、小野田 健康福祉部長、大川 介護福祉課長、古宮 介護福祉課長補佐、西野 高齢者支援係長、榎本 副主査、白井 主事、宮野 社会福祉士</p> <p>【説明員】富津地区 地域包括支援センター長、大佐和地区 地域包括支援センター長、天羽地区 地域包括支援センター長</p>
6 公開又は非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 非公開の理由	
8 傍聴人数	0人 （定員5人）
9 所管課	健康福祉部 介護福祉課（電話 0439-80-1262）
10 会議録（発言の内容）	別紙のとおり

令和6年度第2回富津市介護保険運営協議会 会議録

発言者	発言内容
開会（10：01）	
古宮課長補佐	——会議前の諸連絡、資料確認及び開会——
宮崎会長	——会長挨拶——
高橋市長	——市長挨拶——
宮崎会長	<p>それでは、議事を進行させていただきます。</p> <p>まず、私から、本日の会議の議事録署名委員の指名をいたします。</p> <p>早川委員を議事録署名人に指名しますので、よろしくお願いします。</p> <p>なお、事務局からの通知のとおり、議案第1号及び報告第4号から報告第6号までについては、事前説明文を配付しておりますので、事務局の説明を省略し、審査を行いますので、ご了承願います。</p> <p>それでは、会議次第に沿って、進めさせていただきます。</p> <p>資料1ページの議案第1号「指定地域密着型サービス事業所及び指定地域密着型介護予防サービス事業所の指定更新について」を議題といたします。この議案は市長からの諮問案件になります。</p> <p>直ちに質疑に入ります。ご質疑ございませんか。</p>
——委員から「異議なし」の声あり——	
宮崎会長	<p>それでは、ご質疑、ご意見もないようでございますので、議案第1号「指定地域密着型サービス事業所及び指定地域密着型介護予防サービス事業所の指定更新について」は、承認することにご異議ございませんか。</p>
——委員から「異議なし」の声あり——	
宮崎会長	<p>異議なしと認めます。それでは、議案第1号「指定地域密着型サービス事業所及び指定地域密着型介護予防サービス事業所の指定更新について」は、承認することといたします。</p>

	<p>以上が、本日の議案となります。</p> <p>なお、答申書の書面については、私に一任いただいてよろしいでしょうか。</p>
——委員から「異議なし」の声あり——	
宮崎会長	<p>続きまして、報告に移ります。</p> <p>資料8ページの報告第1号「令和5年度地域包括支援センターの決算及び事業評価について」です。事務局の説明を求めます。</p>
宮野社会福祉士	<p>報告第1号「令和5年度地域包括支援センターの決算及び事業評価について」をご説明申し上げます。資料の8ページをご覧ください。この表は、3地区の地域包括支援センターの決算を比較した一覧表で、今年度から作成しております。</p> <p>地区ごとの人口や高齢化率等の条件がそれぞれ異なるため、金額のみで単純に比較することはできませんが、今後の各地域包括支援センターの取り組みなどに活用していきたいと考えております。なお、次ページ以降にあります各地域包括支援センターの収支報告書では次年度への繰越金を支出として計上しておりますが、今年度の収支を明確にするため、この表では「次年度への繰越金」を収支項目の一番下に記載しております。</p> <p>地域包括支援センターにつきましては、富津地区、大佐和地区、天羽地区の各日常生活圏域において、市が業務を委託して実施していることから、各地域包括支援センターから、説明をさせていただきます。</p> <p>事務局からは以上です。</p>
宮崎会長	<p>それでは、富津地区・大佐和地区・天羽地区の順で、各説明員より、順次説明願います。</p>
富津地区地域包括支援センター 溝口センター長	<p>富津地区地域包括支援センター令和5年度収支報告についてご説明いたします。</p> <p>9ページになります。介護予防支援事業につきまして、収入がケアプラン作成料で585万8,146円です。支出は人件費等、ケアプラン作成委託料で585万8,146円です。地域支援事業につきまして、収入が運営業務委託料、ケアプラン作成料、利息、繰越金で4,118万7,033円です。支出は介護予防・生活支援サービス事業費、一般介護予防事業費、包括支援事業費、任意事業費、法人本部返還金、繰越金で合わせて4,118万7,033円です。介護予防支援、介護予防ケアマネジメントの作成件数が年々増加しています。センター業務の大部分を占めつつあり、職員増員の検討が必要な状況と考えています。</p>

	<p>続きまして令和5年度事業評価書になります。10ページになります。</p> <p>初めに一般介護予防事業は看護師を中心に実施しています。「富津市いきいき百歳体操」に関して、グループの活動の後方支援を継続しました。8か所で実施し、327回延べ3,442人が参加され、新規開設は1か所でした。</p> <p>総合相談支援業務の相談は316件ありました。6割が介護保険申請・利用相談でした。進行性の病気により介護認定が定まらない、サービス調整が困難であった。介護支援専門員が満員の状況が続く、ケアマネやサービス利用に繋げるまでに時間を要する問題が多々ありました。早期の認定や介護支援専門員の拡充が課題と考えております。</p> <p>その他は、高齢者の子、孫世代など多世代複合型の相談、ペットの飼育問題、身元保証の問題などセンターや行政機関、民間団体、民生委員や自治会なども含めた多機関での関わりが必要なケースがあります。全般的に家族や社会との関わりが希薄な状況がみられます。介護が身近ではない、必要と捉えていない方へ出張相談会や広報活動を実施しましたが、関心はほとんど得られておりません。</p> <p>権利擁護業務は社会福祉士を中心に実施しています。成年後見制度の説明や利用に関する情報提供を行いました。判断能力が衰えていない方の身元保証など、公的制度では補えない相談があり、高額な民間サービスも利用が厳しいなどの課題が生じています。</p> <p>高齢者虐待の対応については11件あり、年々増加傾向です。行政に措置等の相談を求めつつ、状態改善が出来るよう努めました。消費者被害防止に向けて周知活動や高齢者宅訪問時に状況確認や啓発を行いました。見守りウォーキングわんわんパトロール事業登録者も増加しています。</p> <p>包括的・継続的ケアマネジメント支援業務は主任介護支援専門員を中心に実施しています。地域の介護支援専門員への支援として、富津市ケアマネジャー協議会と協働し年2回事例検討会を開催、その他に個別会議の開催、同行訪問やサービス担当者会議の出席・助言を実施しています。介護支援専門員が安心して気軽に相談できる窓口となれるよう関係づくりに努めました。</p> <p>任意事業である認知症サポーター講座が再開でき、認知症への正しい理解や自分について考える機会が作れました。また、オレンジカフェや出張相談会を活用し、認知症の人と家族の会を招いての家族交流会、認知症サポート医との交流会など開催しました。認知症についての関心は高まっているように感じられます。</p>
--	---

	<p>その他在宅医療・介護連携会議、富津市ケアマネジャー協議会、自立支援のための地域ケア会議、その他職域団体が開催する研修会や会議に参加し顔合わせや情報交換などに努めました。</p> <p>富津地区地域包括支援センターからの収支報告及び事業評価報告は以上となります。</p>
大佐和地区地域包括支援センター 成田センター長	<p>資料14ページをお願いいたします。令和5年度大佐和包括支援センターの収支報告書となります。初めに上段の介護予防支援事業は、収入支出ともに679万4,487円でございます。続いて、中段の地域支援事業は、収入支出ともに2,207万3,882円です。収入ですが、委託料は年度途中で職員の欠員が生じたことから、当初予算より減額の2,024万2,000円となっております。支出については、説明欄に記載しております概要のとおりとなっておりますので、ご確認いただければと思います。また、介護予防支援事業と地域支援事業合わせ、大佐和地区の全体の予防プラン作成件数として令和4年度が1,288件でしたが、令和5年度が1,289件となり新規契約や契約終了がありますが、合計としては同水準となっております。</p> <p>続きまして15ページをお願いします。事業評価に移らせて頂きます。</p> <p>初めに一般介護予防事業の地域介護予防活動支援事業の「富津市いきいき百歳体操」でございますが、継続的に地区社協等と連携し、自主団体の増を目指しながら、団体の後方支援として、運営の相談や情報提供を行いました。令和5年度には新たに1ヵ所自主化しております。百歳体操は定期的な運動による健康維持もありますが、日常的な交流の場としてのサロンの役割があると考えておりますので、今後も活動団体の増加や活動者拡大を目指していきたいと考えております。</p> <p>続いて、総合相談支援業務でございます。在宅介護や相談援助と繋がる始まりの部分でもあります。各ケース相談に応じて包括配置の専門職で共有・検討し、どのように関わるか、介護保険サービスをどのように導入していくのか、または、他機関等に繋ぐのか等の支援内容を話し合い、対応できるようにしております。</p> <p>令和5年度は年間で360件の相談をいただきました。前年度まではコロナ禍関係の問い合わせも含めて増加傾向でしたが、令和5年度では平年並みに近づいた結果となりました。地域の状況として年々高齢化が進む中、個々の抱える生活課題が多岐にわたる相談内容となっており、安心して地域での生活を継続するためにも、相談者に</p>

	<p>とっての最初の入り口となる総合相談支援業務は今後ますます重要になってくると思われます。</p> <p>主な相談内容としては介護保険関係の相談が全体の約6割となっております。また、その他の相談の内容としては、医療機関からの退院時の支援等の医療関係や、安否確認、虐待に関する相談などが見られた傾向です。更に最近は精神疾患や経済関係など、様々な問題が重複しているケースも多くあり、より一層関係機関と連携が重要となってきました。</p> <p>これらのケースにつきましては毎月開催しております、3地区の包括支援センター定例会において、困難ケース事例や社会資源等の検討・共有を図り、富津市の担当課や富津市基幹相談支援センターの職員にも出席いただきながら情報共有等も実施しております。</p> <p>また、総合相談において要介護認定を受けている方から、担当してもらえるケアマネジャーを探す依頼の相談も多くあります。</p> <p>実情としてはケアマネジャーの人員減少傾向等により、介護保険利用者の需要に対して担当してもらえるケアマネジャーを探すことが難しい状況が続いていますが、介護予防を進めるうえでもスムーズな支援者の調整を図ることは重要でありますので、関係機関とも協力体制を密にし、利用者の安心した生活を保てるように対応していきたいと思います。</p> <p>続いて16ページの権利擁護業務になります。老人福祉施設等への措置支援では、金銭的困窮や住宅の老朽化、虐待などの諸事情で自宅に住めなくなっている方等もいらっしゃるので、仕様書に基づき措置を求めています。</p> <p>また、高齢者虐待は、新規での相談対応や、前年度から継続して支援しているケースもあり、早期発見や早期対応できるように3地区包括支援センター及びケアマネジャー協議会と連携して、高齢者や障がい者に係る虐待に関連する研修会を開催しております。</p> <p>また、他にも17ページから18ページまでに事業評価を記載しておりますが、ケアマネジャーや関係機関等と情報共有や連携を図りながら、オンラインを活用した研修会や事例検討会等を行い、ネットワークを構築しながら、対象者・相談者に対して継続的に支援を実施したところでございます。</p> <p>以上で大佐和地区包括支援センターの説明を終わります。</p>
--	--

<p>天羽地区地域包括支援センター 藤野センター長</p>	<p>天羽地区地域包括支援センターの令和5年度収支決算及び事業報告についてご説明します。まず、19ページをご覧ください。介護予防事業については、収入支出ともに415万2,079円です。地域支援事業については、収入3,048万4,893円、支出、次年度繰越金213万6,161円を含み、3,048万4,893円です。次年度繰越金につきましては、ここ数年の物価高騰に対応するために充当するほか、地域包括支援センターの運営を支えるために必須である専門職を確保するための財源として有効に活用させていただき所存です。介護予防給付とはいわゆる要支援対象者のケアプラン作成に伴う収入となっておりますが、その費用の安さや諸所の課題から、ここ数年要支援対象者のケアプラン作成は地域のケアマネ事業所は受けてくださらない状況にあります。そのため新規で発生する要支援対象者のケアプランは全て天羽包括で対応している状況です。そういった観点から収支報告書を分析しますと介護予防支援事業と総合事業分をプラスしたケアプラン作成費から人件費や委託先に支払った差額を計算すると199万1,908円となり次年度繰越金のほとんどがケアプラン作成費により構成されていることがわかります。要支援対象者のプランをケアマネジャー事業所が担当しない状況は現段階では変わる要因がないため今後も天羽地区で発生する全ての要支援対象者のプランを対応していく気概で活動して参ります。</p> <p>それでは事業報告に移ります。特に力を入れた部分についてご説明いたしますので詳細については資料をご確認ください。</p> <p>令和5年度は新型コロナウイルスが第5類となり天羽地区での感染状況も落ち着きを見せたため、ここ数年開催を見合わせていた認知症サポーター養成講座を再開することができました。天神山地区にて31名の地域住民に対して講座を開催いたしました。今回の講座は地域の認知症サポーター医である原田内科小児科医院の原田則雄医師と共同して開催されたことも含め大変意義のある講座となりました。天羽包括では『オレンジリングでつなぐ天羽の輪』とのキャッチフレーズをかかげ、認知症サポーター養成講座を開催しておりますので、受講者に対してオレンジリングという受講者に配布するオレンジ色のリングを配布することで認知症サポーターとしての認識と仲間意識の強化を図りました。このオレンジリングはこれまで無償で支給されておりましたが一昨年より1個110円と有償になりました。しかし、前述のとおり認知症サポーターとしての仲間意識を強化するため天羽包括でオレンジリングを一括購入し、配布いたしました。認知症サポーター養成講座を実施したことについては、チラシを作成し、</p>
-----------------------------------	---

	<p>回覧板にて天羽地区全域にお伝えすることで更に仲間が増える様呼びかけて参りました。</p> <p>また、出前講座に関しても令和5年度は力を注いできました。</p> <p>地域包括支援センターの活動内容や健康講話などを通じ、地域包括支援センターの存在を知っていただくよう活動して参りました。出前講座は年間7回実施し、延べ338人の方に参加していただいております。</p> <p>地域課題を明確にするために大変重要であり厚生労働省も重要視している地域ケア推進会議に関しては湊地区で2回、竹岡地区で1回、金谷地区で1回の計4回実施いたしました。ここ数年「天羽地区で今何が起こっているのか」とのテーマのもと地域課題に関して住民にお伝えし、解決すべき地域課題の共有と一般化を目指してきましたが、令和5年度は「未来の天羽地区のために何が出来るのか」というテーマをかかげ、天羽地区各地域の過去現在未来の人口動態の変遷を軸にお伝えする中で2040年の人口が半減する時期までに地域としてできることを検討する場としました。地域ケア推進会議については会議終了後回覧板にて天羽全域に開催のお知らせを配布しています。今後も会議を通じて天羽地区の地域課題を広く住民に周知し、解決策につなげられるよう活動して参ります。</p> <p>圏域のケアマネジャーが対応に苦慮しているケースに対する検討会である地域ケア個別会議は年2回実施しました。多問題を抱える世帯への支援について、関係者と情報を共有したケースや介入困難ケースにおいて、担当ケアマネと家族がトラブルに至ったケースの仲介役として介入し、サービス利用までの支援を行いました。</p> <p>認知症や、高齢者虐待、消費詐欺被害防止の活動として富津警察署、天羽地区の医療機関や福祉事業所、ケアマネジャー、天羽地区生活支援コーディネーターと協働し密な対応を行いました。</p> <p>医療機関との連携により認知症対象者との早期のかかわりや専門医につなげるといった対応が効果的に行うことができました。</p> <p>消費詐欺被害防止については『天羽地区の高齢者を守るネットワーク』に賛同してくださる51か所に及ぶ医療機関、福祉事業所、一般企業に向けて注意喚起のチラシのFAX送信を年間6回実施し、各々の患者様や顧客に直接注意喚起していただけるよう活動いたしました。残念ながら令和5年度は富津市内において3件、総額1,250万円被害が発生してしまいました。令和5年度より富津警察署協議会の委員となったこともあ</p>
--	---



	<p>り、より強固な連携と情報共有が可能となりましたので今後も地域全体で詐欺被害からご高齢者を守ろうという土壌創りに努めていきます。</p> <p>富津市長のご発声で開始された富津市いきいき百歳体操の実施団体は今年度さらに4団体追加され19団体、登録者約300人となりました。週1回の体操を通じて筋力を維持するという本来の目的のほか、過疎高齢化により希薄化している住民相互のネットワークを補完する新たな人間関係の場としても大いにその効果を発揮しています。団体の創設時から地域包括支援センターの看護師が介入していることや季節で熱中症予防や感染症予防の講話を参加者に向けて行うなどの関係性を継続した結果、参加者の心身に変化が生じた際にダイレクトに天羽包括に相談の連絡が来るという体制の構築が叶いました。地域の高齢者の心身の変調に早期の段階から関われるという点でも百歳体操は大変有益であります。今後も継続して活動が為されるよう、また参加者が増えていくよう支援をしていきます。</p> <p>富津市いきいき百歳体操はご高齢者が住み慣れた街で安心して生活し続けるという地域包括システムの根幹を支える大きな力となっていますので天羽包括として最大限力を注いでいきたいと考えています。</p> <p>以上で天羽包括の事業報告を終了いたします。</p>
宮崎会長	<p>説明員の説明は終わりました。この件につきまして、ご質疑、ご意見ございませんか。</p>
早川委員	<p>富津地区地域包括支援センターの資料に「がん患者の介護保険サービスの暫定利用の調整や介護支援専門員選定の支援が多い」「がん患者は要介護認定が出る頃には、状況が変化し、区分変更申請が必要になる」とありますが、ちょうどそのようなケースに当たりました。</p> <p>7月31日にその方の認定調査があり、要介護1でした。要介護1では、軽度者用のベッドを貸してくれはするのですが、エアマットを借りるためには要介護2が必要になるため、介護保険を利用し借りることはできません。介護保険を利用しない場合は安くても9,500円かかります。がん患者の人は、エアマットを借りなければいけない状況に急激に変化するため、8月1日にその場で区分変更申請を出して、暫定でエアマットを借りるということをしたのですが、8月5日に亡くなってしまいました。結果</p>

	<p>としてエアマットを借りられたのですが、7月は、実費の9,500円で借りなければならない状態でした。</p> <p>今までもそのようなケースがあり、エアマット借りるために、お客様、利用者さんの家族は9,500円かかるか、950円かかるか、の違いがあります。今までもそのような末期がんの患者さんはいましたので、富津市として要介護2を出していただければ良いと思います。</p> <p>がん患者は、区分変更申請をしている間に亡くなってしまうことがあること、区分変更申請に伴う認定調査、主治医の意見書にもお金がかかることから、可能であれば当初の申請の際に、主治医意見書に「末期のがんで急激に悪くなる」という記載があれば要介護2以上が出るような仕組みを作っていただきたいと思います。先ほどの説明でなかなかケアマネが見つからないとありましたが、確かにそうなんです。ケアマネは、やる仕事が多すぎて手が回らないのと、人数制限の44件を受け持っていたら休みがないと思います。ケアマネもそのような中で頑張っているのです、せめて末期のがん患者の場合には、要介護2以上を出していただければ、ケアマネジャーもやりやすいし、市民が利用者になったときに、エアマットを9,500円ではなく、950円で利用できる富津市になったら良いと思います。</p> <p>この場で言うことではないかもしれませんが、富津地区包括支援センター長の説明をきっかけにお話させてもらいました。</p>
宮崎会長	早川委員、今の話は意見ということでよろしいですか。
早川委員	はい。
宮崎会長	他にご質疑、ご意見ございませんか。
——委員から「なし」の声あり——	
宮崎会長	それでは、ご質疑、ご意見もないようでございますので、報告第1号「令和5年度地域包括支援センターの決算及び事業評価について」の報告を終了いたします。

	<p>各地域包括支援センターにあつては、引き続き、高齢者が地域で安心して生活ができるよう、積極的な事業展開をお願いいたします。それでは、説明員の方は、退室願います。ありがとうございました。</p>
<p>——説明員退室——</p>	
宮崎会長	<p>続きまして、資料27ページの報告第2号「令和5年度介護保険事業特別会計決算見込みについて」です。事務局の説明を求めます。</p>
古宮課長補佐	<p>報告第2号「令和5年度富津市介護保険事業 特別会計 決算見込」をご説明申し上げます。</p> <p>お手元にございます、資料の27ページ、A3のカラー印刷のものをご覧ください。</p> <p>この決算見込書は、金額を円単位で、令和6年5月末の内容を基に、作成しております。この表の作りですが、左から順に、科目、令和5年度予算現額、令和5年度決算額、令和4年度決算額、前年度決算額との比較、さらにその隣には、補足説明いたします部分の目印、一番右には科目ごとの詳細説明を記載しております。なお、令和5年度決算については、市議会での議決前であることから、決算見込書と表記しております。</p> <p>それでは、前年度比増減が大きいものなど、主な科目について、ご説明いたします。</p> <p>最初に、歳入の決算見込み、1款 保険料について、ご説明いたします。令和5年度の決算見込額は、10億4,984万8,768円で、前年度決算額と比較して、903万5,862円の減となっております。決算収納率では、現年度分特別徴収が100.23%、現年度分普通徴収が91.05%、滞納繰越分が18.13%となります。なお、年金から天引きされる特別徴収には、還付されていない介護保険料が含まれているため、100%を超える数値となっております。介護保険料全体の収納率として令和5年度が97.99%で、前年度の97.55%と比較し、0.44ポイントの増となっております。また、滞納繰越分の収納率は、前年度比6.91ポイントの増、決算額比では、50.19パーセントの増となっております。</p> <p>これについては、市税と介護保険料を重複して滞納しているなどの徴収困難案件を、納税課に徴収移管し、一括して差押え等の処分を行う取組をするとともに、介護福祉</p>

課においても、預貯金等の差押えを実施したことが、一定の効果があったものと考えております。今後も更に差押え等の滞納処分を強化し、収納率の向上を図って参ります。なお、市民の利便性の向上のため、介護保険料のコンビニ納付、スマホ決裁アプリによる納付を令和5年7月から導入し、納付環境の拡充を図りました。

次に、3款 国庫支出金は、介護保険給付費及び地域支援事業費に係る国の負担金などで、決算見込額は12億8,350万7,858円です。前年度と比較して、3,347万5,406円の増となっております。これにつきましては、この後説明いたしますが、歳出の2款、保険給付費が増額となったことが主な要因です。また、このうち、保険者努力支援交付金は、介護予防や健康づくり等の取組の評価により、交付される交付金で、決算見込額は650万1,000円です。これについては、前年度比、30.96%の増で、153万7,000円の増額となっておりますが、獲得点数は、千葉県平均を下回っており、県内での順位も54市町村中、36位と低い水準にあることから、評価の悪かった項目など精査し、より多くの交付金を獲得できるよう取り組んで参ります。

次に、7款 繰入金のうち、2項 基金繰入金 1億2,147万5,000円は、介護給付費準備基金から取り崩しを行ったものです。基金残高等の詳細はこの後ご説明いたします。

次に、8款 繰越金は、令和5年度からの繰越金で、決算見込み額は、1億1,178万8,446円です。これは、国・県からの交付金が過大交付となったことが、主な要因です。

以上、歳入見込額は、55億9,517万2,702円で、前年度と比較して、1億5,168万6,630円の増となっております。

引き続き、歳出につきまして、ご説明いたします。資料の29ページをご覧ください。

はじめに1款 総務費は、介護保険事業を運営するための職員人件費や事務経費で、決算見込額は、1億1,235万4,092円で、前年度と比較して657万5,371円の減となっております。減額の要因としては、介護認定調査に係る事務経費の減などとなっております。なお、この歳出分は、全て一般会計からの繰入金で賄われるものでございます。

次に、2款 保険給付費は、介護サービス費、介護予防サービス費等で、決算見込

額は、50億6,862万9,146円で、前年度と比較して1億6,839万5,170円の増となっております。これは、介護サービス費のうち、居宅介護サービス、施設介護サービス費などの増加が要因となっているものです。なお、この歳出分は、介護保険料、支払基金、国、県、市から一定の割合による負担金で賄われております。

続きまして、3款 地域支援事業費は、介護予防・生活支援サービス事業、一般介護予防事業、包括的支援事業及び任意事業で、決算見込み額は、2億2,133万8,476円で、前年度と比較して1,211万8,210円の増となっております。主な要因としては、包括的支援事業・任意事業の実施に伴う人件費の増額となっております。こちらの歳出分も介護保険料、支払基金、国、県、市から一定の割合による負担金で賄われております。

以上、歳出見込み額は、55億1,743万3,194円で、前年度と比較して、1億8,573万5,568円の増となっております。

歳入合計55億9,517万2,702円から歳出合計55億1,743万3,194円を差し引きますと7,773万9,508円の余剰金が生じ、令和6年度への繰越金となります。

最後に、表の下、オレンジ色部分をご覧ください。一番上の行が、年度末現在の基金残高となります。令和5年度末現在で、2億2,778万9,305円で、前年度末から7,368万2,443円の減となっております。次の行が1人当たりの保険料調定額ですが、6万5,011円で、前年度と比較しますと、302円の減となっております。一番下の行が一人当たりの保険給付費ですが、31万3,226円で、前年度と比較しますと、1万2,617円の増となりました。なお、資料に記載はございませんが、ここで君津地域4市の状況を参考に申し上げます。まず、基金残高ですが、各市人口規模等が異なることから、基金残高で比較すると分かりづらい部分がありますので、基金残高を被保険者数で割った、一人当たりの基金残高で比較させていただきます。木更津市が3万1,968円、君津市が3万2,077円、袖ヶ浦市が3万6,827円、富津市が1万4,077円となっております。

次に、一人当たりの保険給付費ですが、木更津市が25万4,180円、君津市が24万6,293円、袖ヶ浦市が23万444円、富津市が31万3,226円と、4市の中では富津市が介護給付

	<p>に係る支出が一番高くなっております。</p> <p>以上で、報告第2号「令和5年度富津市介護保険事業 特別会計決算見込について」の説明を終わります。</p>
宮崎会長	事務局の説明は終わりました。ご質疑、ご意見ございませんか。
宮崎会長	他にご質疑、ご意見ございませんか。
——委員から「なし」の声あり——	
宮崎会長	<p>それでは、ご質疑、ご意見もないようでございますので、報告第2号「令和5年度介護保険事業特別会計決算見込みについて」の報告を終了いたします。</p> <p>続きまして、資料31ページの報告第3号「第8期富津市介護保険事業計画・富津市高齢者福祉計画の達成状況の報告・評価について」です。事務局の説明を求めます。</p>
大川課長	<p>それでは、報告第3号「第8期介護保険事業計画・高齢者福祉計画の達成状況の報告及び評価について」をご説明します。資料の31ページをご覧ください。</p> <p>はじめに、「被保険者数、認定者数等」です。(1)の「被保険者数等」をご覧ください。一番右の列の「令和5年度」の実績と計画との比較ですが、75歳以上の後期高齢者は29人の増、65歳から74歳までの前期高齢者は100人の減で、65歳以上の高齢者全体では71人の減となっております。なお、令和5年度末時点の本市の高齢化率は、39.62%でございます。日本の総人口における高齢化率は29.1%ですので、富津市は、約10%高い状況となっております。また、県内の状況を見ますと、県内平均は27.5%で、富津市は、54市町村中16番目に高い高齢化率となっています。参考までに高齢化率が一番低い団体が、浦安市で18.4%、一番高い団体が御宿町の52.0%です。</p> <p>次に、(2)の「要介護・要支援認定者数」です。一番右の「令和5年度」の実績と計画との比較ですが、各介護度で計画人数との差がありますが、合計では65人の減となっています。</p> <p>次に、(3)の「保険料段階別第1号被保険者数」です。第8期では、65歳以上の被</p>

保険者の介護保険料を、所得に応じ12段階に区分致しました。この表は、それぞれの段階の人数を記載しています。第8期における保険料の基準額は、第5段階の年額6万8,400円、月額にしますと5,700円です。この表の、右から2列目、令和5年度の実績では、第5段階の被保険者は2,039人で、被保険者全体に占める割合は12.6%となっています。基準額より低い、第1段階から第4段階までの被保険者の合計は7,362人で、全体に占める割合は45.5%です。一方、基準額より高い第6段階から第12段階までの被保険者の合計は、6,781人で、全体に占める割合は41.9%となっています。一番右の列の令和5年度の実績と計画との比較ですが、基準額より低い被保険者数の合計は、計画より245人減、一方、高い被保険者は、計画より313人増となっております。

次に32ページをご覧ください。「施設等の整備」状況です。第8期では、小規模多機能型居宅介護事業所を富津地区又は天羽地区に1事業所の整備を見込みましたが、整備に至りませんでした。引き続き第9期で整備を見込んでおります。

次に33ページをご覧ください。保険給付費と地域支援事業費の実績です。表の左上の「A 保険給付費」の行の一番右の列の(ケ)、「計画との比較」「令和3年度～令和5年度」をご覧ください。3か年の実績と計画を比較すると、約1億5,500万、約1%の減となっています。左下の「G 地域支援事業費」の行の同じく一番右の列の(ケ)をご覧ください。3か年の実績と計画を比較しますと、約1億2,600万円、約17%の減となっています。

次に35ページをご覧ください。A3版の資料です。こちらは、「第8期事業計画における掲載事業の評価」の一覧となっております。文字が小さくて申し訳ありません。

いくつかピックアップしてご説明いたします。

はじめに、一番上の行、「施策1 介護予防の推進」について、説明いたします。

「(1) 一般介護予防事業の実施」をご覧ください。第8期は、いきいき百歳体操やフレイルチェック講座の普及を目標に取り組みました。3か年の評価を申し上げます。一番右の列の「令和5年度」の欄の「総合評価」をご覧ください。3か年で市民ボランティアのフレイルサポーターを20人養成し、サポーターによるフレイルチェック講

座を17回実施したほか、いきいき百歳体操実施グループは15団体・137人増加したことから、おおむね目標を達成と致しました。いきいき百歳体操は、令和5年度末で43団体・652人が参加しており、通いの場に対して食や口腔ケアに関する教室の開催のほか、市や地域包括支援センターからの情報を提供する場としても活用して参ります。

次に、「施策3 在宅医療・介護連携の推進」について、説明します。42ページをご覧ください。上から3行目、「(3) 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進」とその下の「(4) 医療・介護関係者の情報共有の支援」を併せてご覧ください。第8期は、君津圏域の情報共有ツールであるエチケット集の更新や、地域生活連携シート等の活用を目標に取り組みました。エチケット集を更新したこと、また、バイタルリンクの導入により在宅患者の急変時診療医療機関等の情報共有をはじめとする医療・介護の情報連携が進んだことから、おおむね目標を達成と致しました。

44ページをご覧ください。表の一番下「(9) 再発予防の推進」をご覧ください。第8期で新規事業として掲げ、地域ケア会議での専門職からの助言がどう実践され、結果としてIADLの向上につながっていったか、モニタリング等により経過の把握、分析を目標に取り組んで参りました。本事業は、モニタリング等による経過の把握・分析ができなかったことから、目標を達成することができませんでした。引き続き、第9期において取り組んで参ります。

次に、「施策4 認知症施策の推進」について説明します。45ページをご覧ください。一番下の行「(4) 認知症に対する理解を深めるための啓発」をご覧ください。第8期は、認知症メモリーウォークを開催し、市民に対して認知症の啓発を目標に取り組みました。令和5年10月29日に介護事業所等から組織された実行委員会により第1回認知症メモリーウォークを開催し、参加者32名とともにイオンモール富津付近を、横断幕等を持って歩き、市民周知を行いました。このことから、おおむね目標を達成としました。

次に、「施策6 地域づくりの推進」についてご説明します。52ページをご覧ください。表の一番上、「(1) 支え合い活動の推進 ①地域づくりの支援」をご覧ください。



	<p>第8期は地域課題を把握し、必要なサービスの拡充を目標に取り組みました。地域課題の把握をしましたが、解決のためのサービス拡充までには至らなかったことから、目標を下回りました。引き続き、第9期計画において取り組んで参ります。</p> <p>ピックアップして申し上げましたが、目標を達成したことにつきましても、また目標を下回った事業につきましても、第9期において計画している事業につきまして引き続き取り組んで参ります。以上で、報告第3号についての説明を終わります。</p>
宮崎会長	<p>事務局の説明は終わりました。</p> <p>ご質疑、ご意見ございませんか。</p>
——委員から「なし」の声あり——	
宮崎会長	<p>それでは、ご質疑、ご意見もないようでございますので、報告第3号「第8期富津市介護保険事業計画・富津市高齢者福祉計画の達成状況の報告・評価について」の報告を終了いたします。</p>
宮崎会長	<p>続きまして、</p> <p>資料57ページの報告第4号「指定介護予防・日常生活支援総合事業指定事業者の指定更新について」</p> <p>資料76ページの報告第5号「指定介護予防・日常生活支援総合事業指定事業者の廃止について」</p> <p>資料78ページの報告第6号「指定居宅介護支援事業所の廃止について」</p> <p>を一括報告いたします。</p> <p>直ちに質疑に入ります。ご質疑ございませんでしょうか。</p>
榎本委員	<p>事業所の廃止についてですが、77ページになります。「なべさん家のさくら」が人員確保と経営が困難という理由でやむなく廃止したと思いますが、現利用者については、他の事業者を引き継ぐため、ケアマネジャーが探しているということですが、何名の利用があったか、今現在は追跡調査の結果、利用ができているかを教えていただきたいと思います。</p>

古宮課長補佐	「なべさん家のさくら」については、事業廃止前は2名の方の利用があり、事業廃止年月日の令和6年7月26日時点で、事業所に確認を取ったところ、既に他の事業所に移行済みとの報告を受けております。
宮崎会長	他にご質疑、ご意見ございませんか。
——委員から「なし」の声あり——	
宮崎会長	それでは、ご質疑、ご意見もないようでございますので、報告第4号から報告第6号までの報告を終了いたします。
宮崎会長	以上で、本日の議事は終了しました。  その他として、委員の皆さんから何かありますか。
榎本委員	介護福祉課の常勤の介護認定調査員が増えているように見受けられますが、今後は非常勤の介護認定調査員を減らしていく方針ですか。
古宮課長補佐	今後の介護認定調査員につきましては、令和7年度の当初予算要求の中で検討していくことになります。令和4年度に介護認定調査の遅れ等があったことから、会計年度任用職員を任用し、体制整備を進めてきたところですが、現段階で全ての介護認定調査を会計年度任用職員に移行するという考えには至っておりません。
宮崎会長	事務局から何かありますか。
榎本副主査	次回の運営協議会は11月を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。
宮崎会長	それでは、以上をもちまして、令和6年度第2回富津市介護保険運営協議会を終了いたします。長時間にわたり、大変お疲れ様でした。
閉会（11：12）	